



特定非営利活動法人チャイルドラインむさしの

## 電話やチャットで子どもの声に耳を傾け あたたかく気持ちに寄り添う

児童虐待やSNS内での仲間外れ、悪口など、今、学校や家庭内において、子どもたちを取り巻く環境はより複雑化し、さまざまな問題が起こっているにも関わらず、周囲の大人や友人からは見えづらくなっているのが現状です。

2001年に活動を開始した「チャイルドラインむさしの」は、18歳までの子ども専用電話として、「ヒミツはまもる」「どんなことも一緒に考える」「名まえはいわなくていい」「切りたいときには、電話を切っていい」という4つの約束のもと、これまで数多くの多感な子どもたちの声に耳を傾け、思いに寄り添ってきました。

「親や先生、友だちにも言えない出来事や悩みなど、子どもたちが安心して何でも話せる居場所を作りたいとの思いで活動を続けています。つい大人は子どもにもアドバイスや解決策を示したくなるのですが、チャイルドラインでは助言や指導を目的とせず、子どもたちの声を全面的に受け止め、気持ちを共有するよう努めています。電話を受ける受け手は、子どもたちの気持ちを常にあたたかく受け止められるよう、継続的に研修も行っています」と理事の安住桂子さんは語ります。

1970年代に北欧で誕生したチャイルドラインは、その後イギリスで発展し、1998年から日本でも活動が始まり、現在は39都道府県で68の団体が活動を続けています。

「人間関係や性、自分自身についてなど、子どもたちの声はさまざまですが、最近はどこにも自分の居場所がない、自分は誰からも必要とされていないなど、孤独感や孤立感を持つ子どもが増えていると感じます。大人の過度な期待と本当の自分とのギャップに苦しむ子どもも多いですね」とスタッフの赤保谷昌子さん。

子どもからの声は基本的にはフリーダイヤルの電話で受け付けていますが、「電話より気持ちが伝えやすい」との意見も多いことから、2019年からは文字でのやりとりによるオンラインチャット相談もスタートしました。「オンラインチャット相談では、文章で気持ちを整理することで気分が落ち着くケースもあるようです」（赤保谷さん）

チャイルドラインは、子どもたちの小さな声を受け止める1つの方法です。大人が、社会がその声に耳を傾け、子どもたちが抱える課題や問題を少しでも解消できるよう力を合わせていく必要があるのではないのでしょうか。

### 特定非営利活動法人 チャイルドラインむさしの

2001年開設。2004年、NPO法人となる。法人の目的に賛同する正会員と賛助会員、約40名によって構成。18歳までの子どもからの電話・オンラインチャットの受け付け、継続的な受け手研修、専門家を招いた一般公開講座の開催、活動内容を報告する「チャイルドラインむさしのNews」や講演録の発行などの活動を行う。

### チャイルドラインむさしの

でんわ 電話 0422-23-7850

(フリーダイヤル 0120-99-7777)



まいしゅう かようび  
毎週火曜日  
ごご 午後3時～8時まで  
でんわ 電話できるよ

でんわ にがて  
電話が苦手なら  
チャットもできるよ

